

事業番号	10 02 01	事業改善シート（令和3年度実施事業分） ■当初要求 □当初予算案 □補正予算案 □点検			
事業名	林業関連教育・研究開発の推進及び普及関係事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	S33 ～	E-mail	ringyou@pref.nagano.lg.jp
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	1. 労働生産性 2. 県民一人当たり家計可処分所得 6. 就業率				
総合的に展開する重点政策	1-3 高等教育の振興による知の拠点づくり		2-6 郷学郷就の産業人材育成・確保		
	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 現状と課題

目指す姿 これまでの取組	【目指す姿】 ・森林を活かす力強い林業・木材産業づくりのため、課題解決に向けた試験・研究や教育の充実を図り、健全な森林の育成や関連産業の効率的発展を目指す ・林業大学卒業生における、林業・木材産業関係分野への就業者の継続的な確保 ・林業総合センターの試験・研究の促進 【これまでの取組】 林業大学や林業総合センターによる知識の教示や試験研究、普及指導員等による地域の林業事業者等の指導など				
	令和2年度点検結果 現状分析	<table border="1"> <thead> <tr> <th>課 題</th> <th>今後の方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ・林業大学校においては、質の高い人材の育成を図るとともに、林業分野を目指す学生の確保を図るために、学校の魅力を高めていくことが必要である。 ・長野県の強みであるカラマツ大径材とマツタケを活かした産業や山村の活性化に貢献するための試験研究・開発が必要である。 </td> <td> ・安全教育の強化やICT技術を活用したスマート林業などのカリキュラムを実施するとともに、学生が安心して勉学に励むことができる環境を整備し、林業大学校における次代の担い手の育成を図る。 ・全国的にみても先進的な林業総合センターの試験研究・開発を促進し、木材の新製品やマツタケの人工栽培方法を開発する。 </td> </tr> </tbody> </table>	課 題	今後の方向性	・林業大学校においては、質の高い人材の育成を図るとともに、林業分野を目指す学生の確保を図るために、学校の魅力を高めていくことが必要である。 ・長野県の強みであるカラマツ大径材とマツタケを活かした産業や山村の活性化に貢献するための試験研究・開発が必要である。
課 題	今後の方向性				
・林業大学校においては、質の高い人材の育成を図るとともに、林業分野を目指す学生の確保を図るために、学校の魅力を高めていくことが必要である。 ・長野県の強みであるカラマツ大径材とマツタケを活かした産業や山村の活性化に貢献するための試験研究・開発が必要である。	・安全教育の強化やICT技術を活用したスマート林業などのカリキュラムを実施するとともに、学生が安心して勉学に励むことができる環境を整備し、林業大学校における次代の担い手の育成を図る。 ・全国的にみても先進的な 林業総合センターの試験研究・開発を促進 し、木材の新製品やマツタケの人工栽培方法を開発する。				

2 令和3年度事業内容

予算のポイント・主な取組(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 林業大学校における次代の担い手の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・適正な学校運営 ・喫緊の課題である学生寮の改築に着手 ・森林資源の循環利用のためのチップボイラーの導入 ✓ 林業総合センターの試験研究・開発の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・試験研究装置を活用した高品質・高強度な大径カラマツの新製品開発 ・マツタケ菌感染苗木によるマツタケ人工栽培の試験・開発 ・成長に優れたカラマツ等コンテナ苗木等の開発 等 	 チェーンソー実習	 オーストリアでの研修
		 カラマツ材の利用技術の研究	 マツタケ人工栽培技術研究

指標の状況及び目標値 [▲:改善、▼:悪化、→:変化なし]						区分(単位:千円)			
No	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度末(見込)	R3年度目標値	前年度繰越	R1年度	R2年度	R3年度
1	林業大学校卒業生で就業した者の林業関係分野への就業率	78.0%	70.0%	▼ 80.0%	▲ 80.0%	0	117,281	628,646	要求 242,560 予算案 —
2	林業総合センターの研究成果の発表件数	124件	95件	▼ 80件	▼ 80件	0	0	-1,195	要求 242,560 予算案 —
3	体験学習の森の講座定員充足率	92.0%	85.6%	▼ 90.0%	▲ 85.0%	合計(A)	117,281	627,451	要求 122,897 予算案 —
4	林業大学校卒業生のうち県外出身者の県内就業率	57.1%	50.0%	▼ 50.0%	→ 60.0%	うち一般財源	67,332	199,767	要求 122,897 予算案 —
5						決算額(B)	86,944		
						職員数(人)	90.4	81.9	
成果指標設定理由	1 林業大学校の学生が林業の担い手として、その知識等が活かせるための指標（過去の実績を基に設定） 2 林業総合センターの研究・試験成果を広く周知し活かすための指標（過去の実績を基に設定） 3 県民参加の森林林業講座の中身の充実を図るための指標（過去の実績を基に設定） 4 林業大学校の県外出身卒業生が、県内で林業の担い手として、その知識が活かせるための指標（過去の実績を基に設定）								

事業名	林業関連教育・研究開発の推進及び普及関係事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
-----	------------------------	----	-----	-----	---------

細事業 No.	細事業名	R 1 年度 当初予算	R 2 年度 当初予算	R 3 年度 当初予算
1	林業大学校関係事業	38,739 千円	545,986 千円	要求 136,889 予算案 - 千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和3年度 実施内容(予定)
1	林業大学校費	直接	林業の担い手確保のため、高性能林業機械やタブレット端末といった先端技術を導入した専門的、体系的な授業の実施
2	林業大学校教育環境整備事業	直接	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した学生寮を改築し、学生が安心して学業に専念できる環境を整備 ・ゼロカーボン社会実現のため、熱源には木質バイオマスボイラーを導入

細事業 No.	細事業名	R 1 年度 当初予算	R 2 年度 当初予算	R 3 年度 当初予算
2	研究開発の推進及び普及関係事業	78,542 千円	82,660 千円	要求 105,671 予算案 - 千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和3年度 実施内容(予定)
1	林業改良普及事業	直接	森林・林業に関する知識・技術の普及啓発のため、各種研修、指導及び情報発信を行う
2	林業総合センター管理費	直接	林業総合センター施設の管理運営業務
2	林業総合センター試験研究普及費	直接	森林・林業に係る多様な課題解決のために、技術開発・試験研究を行う
3	林業総合センター体験学習の森事業費	直接	森林・林業に関する県民への普及啓発のため、公開講座開催や展示資料の充実を図る